

Ursula and Fritz Melchers Travel Award を受賞して

氏名	岡田 航	
所属	鳥取大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 免疫学分野	
発表論文 タイトル	Generation of autoreactive bone marrow plasma cells	

この度は Ursula and Fritz Melchers Travel Award という名誉ある賞に選出いただき、大変光栄に存じます。Melchers ご夫妻ならびに選定委員の先生方、また、日頃より研究をご指導くださっている常世田好司先生をはじめ、吉野三也先生、村田暁彦先生にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

現在、私は自己免疫疾患がどのような仕組みで発症し、慢性化するのかを明らかにしたいと考えております。それは疾患の完治に結び付けるためだけでなく、自己免疫疾患などの生体の異常が何をきっかけに引き起こされるのかを理解し、さらに正常な寛容状態を維持する仕組みについて解明するために研究に取り組んでいます。本学会において私は、自己抗原に類似した異種抗原を投与することで引き起こす重症筋無力症の動物モデルを用いて「B細胞が早期では外来抗原に反応しているものの、時間が経つにつれ自己抗原に対して反応し、自己抗体産生プラズマ細胞に分化すること」、「B細胞がプラズマ細胞へと分化する際に重要な役割を果たすヘルパーT細胞はどれだけ時間が経過しても自己抗原には反応せず、外来抗原に反応し続けていること」を示す研究成果を発表致しました。

ポスター発表では多くの研究者の方々と議論を交わすことができ、その中でも「B細胞がどのような仕組みで自己抗原に対し反応するようになったのか」や「ヘルパーT細胞は自己抗原に対し反応せず、B細胞が自己抗原に反応するようになったのはなぜなのか」など、免疫における「自己」と「非自己」に関わるような話や、実験方法についての細かなアドバイスもいただくことができました。また、今年度の学会は「国際舞台への発信最前線」がテーマであり、昨年度以上に海外の研究者との英語による議論を行う機会が多くあり、英語での議論を深められるようなコミュニケーション能力の向上が実感できました。さらに、自分の発表だけでなく、口頭発表や他の研究者のポスター発表についてもこれまで自分が持ち合わせていなかった視点からの研究が多くあり、今後の研究を行う上で、より一層幅広い視点を持つことができ、大変有意義な時間を過ごすことができたと感じております。

最後になりましたが、本研究を支えて下さった研究室の方々をはじめとする多くの方々に深く感謝申し上げます。今回の学術集会を通して学んだことを糧に、また、今回の受賞を励みとし、今後も自己免疫疾患の発症機序、さらには慢性化や再発を引き起こす仕組みについても研究を行いたいと思います。